2021年12月

民際協力ニュース

パルシック ニュース VOL.39

パルシック PARC Inter-peoples' Cooperation

ミャンマーの市民に日本の市民からの支援を届けたい!!

1年前の11月、ミャンマーの総選挙でアウンサンスーチー氏率いるＮＬＤ（国民民主連盟）が、83％の得票率で圧勝しました。しかし、2月1日にミャンマー国軍がその結果を覆すべく、スーチー氏を含むＮＬＤの指導者たちを逮捕し、軍事力によって政権を掌握しました。直後からミャンマー全土で市民の抗議活動が広がっています。当初は若者たちが中心となってＳＮＳを駆使し、街頭で抗議活動を展開しましたが、国軍と治安部隊が銃口を向けました。

わずか19歳の美容師のチェーズィンさんが、逃げていく後ろから頭部を撃たれて命を失なったことは、当時日本でもテレビ報道され衝撃を受けました。ミャンマーでは、その後も何万人ものチェーズィンさんが国軍への抗議を続けています。情報が軍によって管理され、街頭での抗議行動が難しくなる中で、市民不服従運動が広がりました。

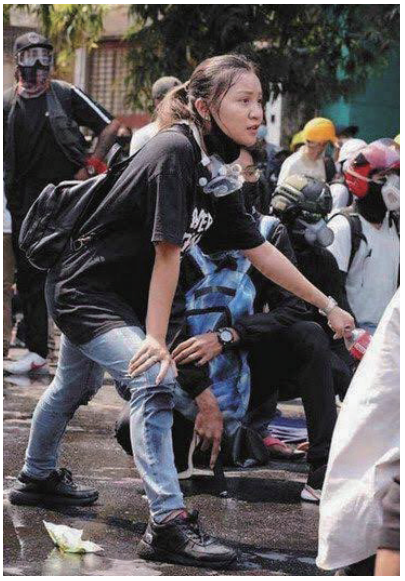
市民不服従運動は看護師、教員、看護師、技術者などの公務員が職務を行わない形で参加しています。国軍による命令に従わない結果、収入を失った人たちは40万人にも上っています。看護師や医療従事者への国軍による攻撃も激しさを増しています。

弾圧を逃れて、カヤ州、カレン州、チン州など、長年国軍と闘ってきた少数民族の地域に亡命した人たちも多く、国内避難民は58万９０００人にも上っています。

在日ミャンマー人たちも、１９８８年の民主化運動に際して亡命した人や看護師などの仕事についている若い世代の人たちがともに協力して、故国の家族の無事を案じながら、レストランの売り上げを送金するなどの支援を展開しています。

アウンサンスーチー氏は日本に滞在されたこともあり、その笑顔は誰もが思い浮かべることができるくらいに親しく感じられる方です。ぜひ日本の市民の支援をしっかりとミャンマーの人びとに届けたいと、パルシックは不服従運動で収入を失った方への支援を開始することにしました。物価が高騰し、新型コロナウィルス感染拡大も続くミャンマーの最大都市ヤンゴンで、子どもを抱えて、暮らしの困難な女性世帯を中心に支援します。併せて報道の少なくなったミャンマーの人びとの状況を知るためのオンライン連続講座も行っています。

ぜひご協力をお願いします！



頭部を撃たれ死亡したチェーズィンさん
（デモの様子を伝える SNS より）

ミャンマーへのご寄付

クレジットカード（webサイトより）
https://www.parcic.org/news/19798/

銀行振り込み（ゆうちょ銀行から）
記号：10180
番号：77335011
名義：特定非営利活動法人パルシック

銀行振り込み（ゆうちょ銀行以外から）
店名：〇一八
店番：018（普通）7733501
名義：特定非営利活動法人パルシック
※お振り込みの際は、お名前・ご住所をご連絡ください。

郵便振替
口座番号：
00140-8-536957
口座名義：パルシック

ミャンマー寄付ページ QR コード

デモの様子▶

目次

ミャンマー　ミャンマーの市民に日本の市民からの支援を届けたい!!…… 1
レバノン　未曽有の苦境に陥るレバノンとシリア難民／**シリア**　小麦の収穫を迎えて…… 2
パレスチナ　**ガザ**　封鎖以来４度目の戦争／**西岸地区**　生ゴミ堆肥の販売を開始…… 3
東ティモール　豪雨被災者支援／**インドネシア**　また一からやり直そう…… 4
みんかふぇ　夏のイベントとコミュニティカフェ再開に向けて／**東ティモール**　カフェ・アロマティモール開店！／**民際教育**　オンライン・フィールドワークを３大学で実施…… 5
フェアトレード　東ティモール　コカマウコーヒー大豊作、コハルのロブスタコーヒー新登場！／スリランカ　スパイスでつながるフェアトレードの道…… 6
フェアトレード商品のアレンジレシピ　八朔のマーマレード～ハイビスカス風味／ちょっと寄り道♪フェアトレードな人びと／コラム「日々のこと」はじめました！…… 7
パルシックからのお知らせ…… 8

レバノン　未曽有の苦境に陥るレバノンとシリア難民

レバノンの社会経済状況は、2021年6月後半以降、悪化の度合いを増しました。レバノンポンドの価値が一時公定レートの6％にまで暴落し、基礎食品の価格は2年前と比べ7倍以上に上昇。燃料不足により国営電力からの電気は1日約2時間前後。冷蔵庫がただの箱となり、せっかく買った食料を捨てざるをえない、食中毒が多発する、といったことが日常になりました。

そんな中、パルシックは、経済的に脆弱な人びとに日当を支払いながら、ベイルート大規模爆発で破壊された歴史的建造物を補修する事業を開始しています。

サマースクールのレクリエーション中の子どもたち

アルサールでは、継続してシリア人の小学生500人への教育支援を行っています。新型コロナウィルスの感染が落ち着きを見せ、5月から対面授業が再開。子どもたちは久しぶりに学校で授業を受け、友達と広い運動場で遊べることにとても喜んでいました。

しかし、新型コロナウィルスが完全に収束したわけではありません。再び感染拡大となればまた学校が閉鎖となってしまいます。そんな状況を防ぐべく、パルシックはアルサールの私立学校の全9校で、衛生用品やマスクの配布、医師の巡回など感染拡大防止のための事業も行っています。マスクはシリア難民の女性たちに製造を委託しました。（風間）

（この事業はジャパン・プラットフォームの助成と皆さまからのご寄付で実施しています。）

人びとの声

マスク製造のリーダーになったシリア人女性

シリアでは裁縫の免許とミシンを持ち、裁縫の仕事をしていました。しかし、シリア危機でレバノンに逃れて来て以来、すべてを失ってしまいました。今は自分には継続的な仕事はありません。夫はシリアでは看護師でしたが、レバノンでは働く資格がなく（レバノンではシリア難民は農業、清掃、建設の仕事が認められている）、収入がほとんどないため、UNHCRから現金支援を受け取って家族7人で何とか生活しています。

マスク製造に携わるシリア人女性たち。小さな子どもがいても参加できるよう、作業する建物内に子どもが遊べるスペースを設けています

シリア　小麦の収穫を迎えて

2020年の冬以降、シリアでは降水量が例年より少なく、主食であるパンの原料である小麦の成長に欠かせない水が不足しました。一部地域では、小麦の生産量が前年と比べて50％近くまで減少するといわれています。しかし幸いなことに、パルシックが2020年12月から小麦生産を支援しているホムス県では、湖に近く水へのアクセスを確保していたため、水不足による影響なく収穫を迎えることができました。

ホムス県はもともと小麦生産が盛んでしたが、内戦により生産活動を中断した農家が多くいます。内戦が収まっても、苗や肥料などの価格の上昇で容易には再開できず、再開できた農家も、新型コロナウィルスの影響で規模を縮小せざるをえないケースが多くありました。そのため小麦生産支援は現地の農家にとても喜ばれ、農家の人たちは毎日畑に出ては、1つ1つの苗をわが子のように大事に育てていました。収穫のときには、人びとの顔に笑みが溢れていました。

収穫した小麦に満足してくつろぐ農家の方

今回支援した農家は、収穫した小麦を売った収益で、今後の農業活動を支援なしで継続できるようになりました。パルシックは、これからもより多くの農家の人たちが自立して、農業活動を継続できるよう支援を行っていきます。（大野木）

（この事業はジャパン・プラットフォームの助成と皆さまからのご寄付で実施しています。）

人びとの声

アハマドさん

長期化するシリア内戦による物価上昇で、小麦の種や肥料の購入が難しく、また、シリア全土での燃料不足により、灌漑ポンプ用の燃料の入手が困難になりました。そのため生産規模を大幅に縮小していました。農業以外の生計手段がないため、借金をして農業を続けていました。今回1トンの小麦が収穫でき、小麦を販売した収益で借金が返済できます。そして次回用の小麦の種の購入ができます。支援により農業活動が以前と同じ程度に戻り、継続が可能になり感謝しています。

スプリンクラーで水を撒くアハマドさん

ガザ　封鎖以来4度目の戦争

軍事封鎖14年目、新型コロナウィルス感染症の拡大は、ガザの社会経済を締め付け、失業率は過去最悪となりました。ラマダン最中の4月中旬、エルサレムでの礼拝者立ち入り禁止に端を発したイスラエル兵とパレスチナ市民の衝突は、瞬く間にヨルダン川西岸各地に広がり、ガザではイスラム組織ハマスによるロケット弾発射、イスラエル軍による空爆が10日間続き、2007年のガザ封鎖以来4度目となる軍事攻撃に発展しました。

パルシックは緊急集会を開いて寄付をお願いし、激しい空爆対象となったガザ北部の農家を対象に緊急支援を開始しました。空爆によって農作物を売れなくなった農家から野菜や鶏肉を買い取り、食糧バスケットとして配付、養鶏農家や養蜂農家への支援、空爆を受けた農地の修復など、ガザ経済を支える農業部門の早期復旧に取り組んでいます。

ガザ南部でパルシックが支援を続けてきた女性酪農グループのメンバーも、空爆下、メンバーの家に羊を分散させ家の中で世話をするなど、羊を守り抜いてくれました。

10月にようやく検問所の封鎖で危ぶまれた、搾乳量の多いイスラエル産羊の輸入も無事に完了し、現在は、共同組合に参加した女性たちとともに、チーズ工場の整備も進めています。女性たちは、スキルアップのためチーズ作り研修に参加したり、組合のロゴを作ったりと、閉塞感の中でも楽しむことを忘れず活動を続けています。

（関口）

（この事業はジャパン・プラットフォーム、日本NGO連携無償資金協力の助成と皆さまからのご寄付で実施しています。）

食糧バスケット配付の様子

人びとの声

エティマド・アル・マスリさん
（ベイト・ラヒヤ村）

夫が4年前に脳梗塞で倒れて以来、半身不随になり、自分で身の回りのこともできなくなり、社会福祉省からの補助を受けています。家から少し離れた農地でアンズの木を植えているのですが、空爆中は怖くて外出できず、収穫のシーズンを逃してしまいました。今回、食糧と衛生用品を受け取れると聞き、とても嬉しかったです。娘とたくさんの孫たちに料理を作ってあげようと思います。

パルシックスタッフと話をするエティマドさん（左）

西岸地区　生ゴミ堆肥の販売を開始

5月の治安悪化の際、日本国内では、ガザ地区やエルサレムに報道が集中していましたが、パルシックの事務所や事業地のあるヨルダン川西岸地区でも、連日入植地や検問所付近で衝突が起こり、多くの死傷者を出しました。そのため、ラマッラ事務所のスタッフは事業地への訪問を控えていましたが、その間も事業地の北アシーラ町にいるスタッフは途切れることなく活動を継続しました。今年3年目となった循環型社会形成事業では、生ゴミや地域の廃棄物から製造した堆肥の販売を開始しました。すでに町の人から高い関心が寄せられています。今後、購入者から使用した感想を聞く予定です。また8月には、北アシーラの住民が開催した町おこし祭りにも出展し、温室実験で作った有機野菜や果物、堆肥を販売しました。この祭に参加したことで、普段は接点のない人たちと交流し、活動をアピールすることができました。コロナ禍で長らく中止されていた学校の課外活動も再開され、今後は学生や住民に向けた環境教育や清掃イベントも行っていきます。循環型社会は一人の努力では実現が不可能です。行政と協力しながら町の様々なアクターに働きかけ、事業を盛り上げていきます。

（関口）

（この事業は地球環境基金の助成と皆さまからのご寄付により実施しています。）

北アシーラの町おこし祭りに参加

人びとの声

八百屋アル・シャームの店主
イェヒア・サムハンさん（27歳）

北アシーラ町で八百屋を開いて3年になります。パルシックの生ゴミ分別に参加したのは約1年前からです。最初はあまり興味もなく、適切な分別方法も守っていなかったのですが、週に2回のゴミ回収、正しい分別方法を何度も説明しにやって来るパルシックのスタッフと交流しているうちに分別にも慣れ、今では積極的に活動しています。八百屋では毎日たくさんの生ゴミが出ます。これまでは分別用ボックスを4箱使っていましたが、2箱追加する予定です。

八百屋を営むイェヒア・サムハンさん

東ティモール　豪雨被災者支援

今年4月に東ティモールを襲った豪雨災害。一時期は3千世帯以上が身を寄せていた首都ディリの緊急避難所は閉鎖されましたが、家屋が全壊し戻る家のない人びとは、半年が過ぎた今も家屋再建あるいは移転の目処が立たず、仮設テントで暮らしています。

パルシックは、5月20日より、アイナロ県マウベシ郡およびマナトゥト県ラクルバール郡で家屋修繕事業を開始しました。これら地域では地滑りや強風により家屋や農地が被害に遭い、道路や橋なども壊れ、新型コロナウィルス感染症拡大によるディリ県の越境制限もあって、支援が届きにくくなっていました。

パルシックがコーヒー事業で長く付き合いのあるマウベシ郡での活動は順調に進み、9月には被災者20世帯に家屋修繕資材を手渡すことができました。一方、ラクルバール郡は家屋被災者数も272世帯と多く、東ティモール政府との調整も難航しています。調査の過程で家は無事だったが農地を失った人びとに緊急物資が届いていないことを知り、急遽174世帯に食料配付を実施しました。ディリから車で3時間の山あいのこの地域は、これまでも様々な機会から取り残されてきたのでしょう、行く先々で「災害が繋いだ縁」と歓迎されることに複雑な気持ちを抱いています。

（伊藤淳子）

（この事業はジャパン・プラットフォームの助成と皆さまのご寄付で実施しています。）

マウベシ郡アイトゥト村の被災者へ家屋修繕資材を配付

人びとの声

ティト・リスナハックさん（サナ・ナイン村村長）

今回の災害で川沿いの水田20ヘクタールが流され、村の人口112世帯のうち75世帯が水田を失いました。新たにトウモロコシ畑を開墾したり、商いをしたりして食いつないでいます。水田復旧のためには水路や灌漑用水の整備が必要で、農水省、社会連帯省など政府役所に窮状を訴えていますが、4月の被災から今日まで、一切返答はありません。パルシックを通じて日本の皆さんとこうして縁が出来たことを嬉しく思います。

ラクルバール郡サナ・ナイン村での食料配付。豆を受け取っているのがティト村長

インドネシア　また一からやり直そう

「そのトウモロコシは使い物にならないよ、ここを全部きれいにして一からやり直さなきゃいけない」。サイクロン・セロージャで被災した農家のおじさんの言葉です。私がティモール島の西側・マラカ県の被災地調査に訪れていた際、転がったトウモロコシから芽がでているのを見つけ、手に取った時でした。目の前に広がっていたのは、なぎ倒されたトウモロコシとソルガムきび、洪水の水が引いた後のひび割れた大地。

サイクロン・セロージャは2021年4月4日未明以降、数日間にわたりインドネシア東部や東ティモールに豪雨、暴風、土砂崩れ、洪水、川の氾濫といった様々な災害を引き起こしました。インドネシアでの主な被災地である東・西ヌサ・トゥンガラ州を合わせ181人が死亡、45人が行方不明、6万6036戸の被災家屋、50万9604人が避難民となりました（2021年4月13日現在）。

本事業は6月末にマラカ県で開始しました。災害から2か月以上が経っていたので、ある程度の支援が行われた食糧や援助物資の配布よりも、農地被害を受け蓄えや種蒔き期のための種、農具や漁具、家畜などの生計の手立てを失った人たちが、生計活動を再開するための種と農具、漁具、地鶏の配付をしています。

（松村多悠子）

（この事業はジャパン・プラットフォームの助成と皆さまからのご寄付で実施しています。）

種と農具のセット、漁具のセットを受け取った村の人たち。頭に載せて帰る人が大勢いました

人びとの声

ラサリンダ・ルルック・テティックさん（ラワル村）

洪水にのまれ、家族が散り散りに逃げました。川から溢れた水にはワニが潜む危険もあります。洪水で畑も収穫前の作物もだめになり、かろうじて残った種の蓄えも近所と分けたので、災害後せっかくきれいにした畑に植えられるものはわずかでしたが、パルシックから支援を受け、私たちの暮らしに欠かせないトウモロコシを植えることができました。これで来年1月には収穫が見込めます。他にも、緑豆、野菜の種、鍬を受け取りました。

「みんかふぇ」 夏のイベントとコミュニティカフェ再開に向けて

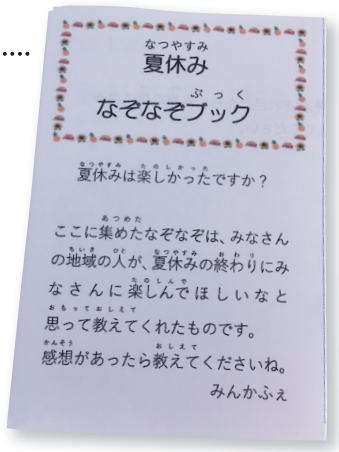
昨年に続き今年の夏休み、子どもたちは外出もままならず、イベントも軒並み中止。我慢がまん、コロナだから仕方ない。そんな、いつまで続くか誰にもわからない辛抱の時期が続きました。私たちみんかふぇでも、増え続ける感染者数と緊急事態宣言下もあり、イベント開催は断念せざるを得ない状況となりました。そこでささやかながら、8月最後のフードパントリーで「お楽しみイベント」を企画。「一緒には集えないけど、一緒のタイミングで同じ食事を楽しもう」と、フライドチキンと「夏休みなぞなぞブック」をお渡ししました。なぞなぞブックは、ボランティアさんやご近所の方、スタッフから「なぞなぞ」を募り、小冊子にまとめたものです。当日の利用者さんからは、「鳥肌が立った！」「子どもたちは初めて食べます」「嘘みたい……」という声も。中には涙を流して喜んでくださる方もいらっしゃいました。感染予防の観点から、ボランティアさんとご一緒する活動も自粛が続きましたが、会えない中でもみんなで協力しあって、イベント開催ができたことをとても嬉しく思います。

また、コミュニティカフェも11月中旬から再開する予定です。6月に移転して以来、感染状況がよくならず、なかなか新しいみんかふぇを皆さんにご紹介できずにいました。状況をよく確認しながらですが、少しずつ居場所づくりを、地域の皆さん、ボランティアさん、利用者の皆さんと一緒に模索していきます。

（加藤英美）

（この事業はジャパン・プラットフォームの助成と皆さまからのご寄付で実施しています。）

11月の再開に先立って、10月末にプレオープンイベントを実施しました。新しいみんかふぇには大きな窓があり、プレオープンイベントのお知らせを窓に書きました



集えなくても形にできるものはあるのだなぁと実感した、みんかふぇオリジナルの「なぞなぞブック」

東ティモール カフェ・アロマティモール開店！

昨年8月から準備を進めてきたカフェ・アロマティモールが、9月28日についに開店！ 元大統領のジョゼ・ラモス・ホルタ氏、通商産業省副大臣、在東ティモールポルトガル大使、そして、当事業に支援してくださったポルトガルの助成機関カモエスの東ティモール担当の方を招待し、オープニングセレモニーを行いました。

その後、開店から約1か月が経ち、スタッフの接客対応にも余裕が感じられるようになりました。人気メニューは、かぼちゃのタルトと、海藻を使ったコーヒーゼリー。店内で販売している商品は、クッキーやチップス類が予想以上に売れています。

今後も売上が伸びていくように、宣伝や新メニューの開発等に力を入れていきます。

（松村優衣子）

（この事業は、ポルトガルの助成機関Camõesの助成を受けて、ポルトガルのNGO、CIDACと協働で実施しています。）

談笑するオープニングセレモニーのゲストたち

民際教育 オンライン・フィールドワークを3大学で実施

この夏、マレーシアと日本の大学生たちを繋ぎ、「多文化共生」、「環境問題」を学ぶオンライン・フィールドワークを実施しました。プログラムの前半は、ペナンの講師から、マレーシアの歴史、宗教、難民などについて学び、後半はマングローブの植林に取り組む漁民団体（PIFWA）や環境ジャーナリスト、現地の大学生など多様な民族の多様な人たちと交流しました。参加した学生の多くは、将来、国際協力分野でのキャリアを目指しており、多文化共生のなかに生きるマレーシアの人たちとの交流は大きな刺激となったようです。プログラムを通して、それぞれが、これからの大学生活に新たな目標を見つけていました。（今村仙子）

「いちばん印象に残った」という声が多かったインド系小学校の校長先生サンガさん（右）へのインタビュー。サンガさんの学校では、SDGsのすべてのゴールを授業や学校生活に取り入れている

from Timor Leste

コカマウコーヒー大豊作、コハルのロブスタコーヒー新登場！

マウベシコーヒー生産者組合 COCAMAU（コカマウ）は、10月半ばにコーヒーの収穫を終えました。最終的な出荷数は、組合史上最高の122トンの見込み！通常は70トン前後ですので、約2倍の量です。収穫量が多くなる表作だったことに加え、開花や結実時の気候がコーヒーの生育に適していたためと農家さんが教えてくれました。昨年に続きコロナ禍での2次加工は、働く人と人の間隔を広くとっているため作業に通常より多くの時間を要し、ディリの工場担当スタッフは綿密なスケジュール管理に奔走しています。とはいえ、2021年4月の豪雨でコーヒー産地も被災した後の収穫だったこともあり、嬉しい悲鳴です。

新たな試みとして、今年はコカマウのアラビカ種のコーヒーに加え、エルメラ県サココ集落の青年組合 KOHAR（コハル）からロブスタ種のコーヒーを入荷します。コハルとパルシックは2009年からロブスタコーヒーのフェアトレードを続けていますが、パルシックが日本国内に在庫を持ち、販売をするのは初めてです。香ばしくて、ミルクとの相性の良いホッとする味わいのロブスタコーヒーです。当面は生豆のみの販売となりますが、この機会にご自宅での焙煎に挑戦してみませんか。

ParMarcheで販売している生豆＆手焙煎器セット 6,095円（税込）

ロブスタコーヒーの生産者コハルの皆さん

コーヒー農家の暮らしを体感する！ 東ティモール オンラインツアー 2021

8月28日 開催しました！

2度目のオンラインツアーとなった今年は、昨年よりさらに山奥深く、マウベシ郡のライメラ集落で暮らすコーヒー農家さんの生活に密着しました。大自然のなか、土着の信仰や家族とのつながりを大切に生きるコーヒー農家さんたちから、たくさんの学びを得たツアーとなりました。

from Sri Lanka

スパイスでつながるフェアトレードの道

スリランカのデニヤヤで採れた有機ブラックペッパーがいよいよ発売されます。将来的に他の事業地のスパイスを巻き込んで展開していけたら、という思いからこの度スパイスのシリーズ名を考えました。その名も『パーラスパイス』。一瞬「パーラー」と伸ばして読みたくなってしまいますが、残念ながらパフェやクリームソーダは出てきません。「パーラ」はスリランカで話されているシンハラ語で、「道」という意味です。かつて、スパイスが「航路」や「陸路」を通じて広がっていったということにヒントを得て、このように名付けました。今後もフェアトレードを通じてさまざまな場所、たくさんの人たちとつながりを持てたら、という希望が込められています。

記念すべき第1弾は、デニヤヤのさんさんとした太陽を浴びてぐんぐん育った、ピリッと辛い黒胡椒です。ぜひ皆さまの料理のお供に添えてみてください。

有機の畑で育つ胡椒の実

有機ブラックペッパー（ホール・50g）の商品パッケージ。シールには、黒胡椒の実とパーラ（道）が描かれている

生産者の声 グナダサさん

私の畑では胡椒のほかに、茶葉、シナモン、ココナッツ、バナナや野菜などを育てています。2013年からエクサ（パルシックが支援する有機紅茶小規模農家グループ）に加入して、有機栽培に転換した際に茶葉の収穫量は半分に落ち込んだのですが、胡椒は変化がありませんでした。今までは地元の市場で売るだけでしたが、今後は日本の皆さまにも手に取っていただけるとのことで、嬉しいです。スリランカ人は辛いもの好きで、日々胡椒はよく使います。特にお肉や魚とジャックフルーツのカレーにはたっぷり使いますし、ほとんどすべてのカレーは胡椒入りです。皆さんもぜひ試してみてください。

有機農家のグナダサさん

パルシックのフェアトレード商品

対等な交易を通じて、人と人のつながりと信頼を広げていくことこそが紛争の抑制、平和の形成に寄与すると考え、「商品の生産、流通、消費などが、市場の価格だけに依存するのではなく、人間的な交流と信用に基づく」という取引のかたちを目指して、直接的な交流、交易を重視しています。

フェアトレード商品のアレンジレシピ

八朔（はっさく）のマーマレード～ハイビスカス風味～

材料

八朔…3個
テンサイ糖（グラニュー糖でも可）… 八朔の重さの40%
アロマ・ティモール　ハイビスカスティー　ハーブ… 大さじ1
コアントロー（オレンジリキュール）… 少々（香りづけ用、お好みで）

※事前に、保存瓶は煮沸消毒しておく。

〈下準備〉八朔は皮をむき皮の内側の白い部分をとりのぞいておく。
薄皮、種、実を分けておく。

作り方

❶八朔の皮を鍋に入れ、浸るくらいの水を入れて5分ほど沸騰させお湯を捨てる。苦味やワックス除去のために、もう一度水を入れて沸騰させお湯を捨てる。
❷①の皮を水でよく流したあと、水に15～30分ほどさらしておく。
❸八朔の実の薄皮と種を鍋に入れ、浸かるくらいの水を入れ火にかける。
❹10分ほど煮てとろみが出てきたら、ハイビスカスを入れる（水分が足りなくなったら、水を足す）。
❺さらに3分ほど煮て、赤色が出てきたら火を止め、ザルでこす。
❻②でわけておいた皮を1～3mmほどの細切りにする。
❼⑤の液に、⑥の細切りにした皮とテンサイ糖の半分を加え、火にかける。
❽10分ほど煮立てたら、残りの半分量のテンサイ糖と実を加え、さらに10分ほど煮立てる。
❾コアントローを加える場合、最後に加え、1分煮立ててアルコールを飛ばす。
❿火からおろし、粗熱が取れたら、消毒した瓶に入れる。

アロマ・ティモール
有機ハイビスカス
20g入り

アロマ・ティモールは全5種類　1個756円（税込）

ハイビスカスの赤色が綺麗な八朔のマーマレードの出来上がり♪

愛飲者の今泉さんから
レシピをお寄せいただきました。
皆さまのアレンジレシピも
どしどしお寄せください！

ちょっと寄り道♪ フェアトレードな人びと

東京都小金井市で、炭火を使ってこだわりの鉄瓶で沸かしたお湯と、自家焙煎した豆を一杯ずつ丁寧にドリップし、コーヒーとゆったりとした時間を提供している出茶屋さん。コカマウのコーヒーも定番商品として長くお取り扱いいただいています。店主の鶴巻さんはオンラインツアーにも参加し、「現地の様子を目にすることができて、それをお客さんに伝えることで話がふくらむことが嬉しい」と感想をくださいました。鶴巻さんは17年以上リヤカーをひいて「珈琲屋台」の営業を続け、出店場所は公園、花屋や、古民家の庭先などさまざまです。現在は屋台だけでなく出会う人とのつながりのなかで常設のお店「小屋」、個人店が集まる元屋内商店街の「丸太ストアー」など、小金井地域のさまざまな場所でコーヒーを淹れています。雨の日も風の日も小金井を歩く珈琲屋台・出茶屋さん、そこには地域の方が気軽に集う温かい空間があります。

出茶屋の小屋の前で店主の鶴巻さん（右）と小屋担当の庄司さん（左）

常設店　出茶屋の小屋　東京都小金井市梶野町1-3-22　オリーブガーデン
出店スケジュールはFacebookから▶ https://www.facebook.com/dechaya.koganei/

コラム「日々のこと」はじめました！

パルシックのオンラインショップParMarcheでは2021年6月から月2回程度、コラムを投稿しています。おいしい紅茶の淹れ方や、商品にまつわる現地のお話、スタッフがはじめて挑戦したことなど、日々のちょっとした出来事を書いています。なかなか対面でお話しすることのできないこのご時世ですが、ぜひのぞきに来ていただき、スタッフや商品が作られている背景をより身近に感じてもらえたら嬉しいです。

ParMarche
https://parmarche.com/pages/column-all/

●イベントご案内

2021年12月8日～10日	エコプロ2021出展@東京ビッグサイト
12月9日	〈オンライン講座〉
	在日ミャンマー人たちの活動
	／レーレールィンさん(Spring Revolution)
2022年1月7日	〈オンライン講座〉ミャンマーの少数民族
	／今村真央さん(山形大学)
1月13日	〈オンラインイベント〉
	スリランカ　胡椒の産地とつながる
2月	〈オンライン講座〉ミャンマー仏教
	／川本佳苗さん(京都大学)
3月	〈オンライン講座〉
	ミャンマーの現状と女性たち

11月4日に開催されたミャンマー連続講座第1回の様子。上智大学の根本敬さんにご登壇いただきました

シリア内戦から10年。農家の人たちの復興への一歩を支えたい！寄付キャンペーンとクラウドファンディングのご報告

内戦勃発から今年で10年になるシリアは、長引く内戦と経済制裁の影響で物価が高騰し、深刻な食糧不足に直面しています。戦乱のなか避難していた農家の人たちは、かつての農地に戻ってきたものの、種や肥料、燃料など必要な物資の価格が高騰して、農業を再開できないでいます。

パルシックは、農家の人たちが内戦で荒れた土地を耕し、食糧を生産し、再び農業によって生計を立てられるように、5月から9月にかけて寄付キャンペーンを実施し、併せてクラウドファンディングに挑戦しました。

4か月で200万円を超えるご寄付をいただき、シリアの農家の人たちに種や肥料、畑を耕す農機具の燃料代を届けることができました。農家の方たちからは、「日本の皆さまのご寄付のおかげで、畑を耕し、種を蒔くことができました。収穫が楽しみです」との声が届いています。ご支援いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。

野菜の種を蒔き終えた畑の前で、感謝を伝えるアレフさん。

皆さまのご支援によって支えられています

募集しています

「みんかふぇ」ボランティア

パルシックが東京都葛飾区で運営するコミュニティカフェ「みんかふぇ」では、活動をお手伝いしてくださるボランティアを募集しています。カフェの補助、利用者さんの話し相手、イベントのお手伝いなどなど。一緒に地域の居場所を作っていきませんか。

▶詳しくは、みんかふぇホームページへ
https://mincafe.parcic.org/

パルシックサポーター

※サポーター会費、寄付は寄付金控除の対象となります。

パルシックの活動に参加したいけれど何をしたら良いか分からない、時間がとれなくてボランティアに参加できない、という方はぜひサポーターになってパルシックを支えてください。

▶サポーター会費　月々 500円コース(月払い または 1年分6,000円一括払い)
月々 1,000円コース(月払い または 1年分12,000円一括払い)

パルシック会員

パルシックの趣旨に賛同し、総会等を通じてパルシックの活動に参加していただける会員、賛助会員を募集しています。

▶年会費　会員：10,000円／賛助会員：20,000円

入会ご希望の方は、東京事務所までお問い合わせください。

民際協力ニュースは年に2回(6月・12月)にパルシックが発行するニュースレターです。会員・サポーター、パルシックへご連絡くださった方、名刺交換をした方へお送りしています。送付の希望、送付先の変更、送付の停止については、office@parcic.orgまでご連絡ください。

ご寄付のお願い

あなたの寄付でパルシックの活動を支えてください。
事業地を指定してご寄付いただくこともできます。
みなさまの温かいご寄付をお待ちしています。

●クレジットカードでの寄付(Webサイトより)
https://www.parcic.org/donation/donate/

●郵便局からの寄付　郵便振替口座：00140-8-536957
口座名義：パルシック

●銀行からの寄付　三井住友銀行　神田支店(普) 2384136
口座名義：特定非営利活動法人パルシック

サポーター・寄付ページ QRコード

銀行からお振り込みの際は、ご住所とお名前をご一報ください。

民際協力ニュース　VOL.39　2021年12月

PARCiC
特定非営利活動法人 パルシック(認定NPO法人)
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-7-11 東洋ビル1F
電話：03-3253-8990　Fax：03-6206-8906
メール：office@parcic.org　Web：https://www.parcic.org

オンラインショップ ParMarche(パルマルシェ)
https://parmarche.com
twitter　@parcic_office
facebook　@parcic
Instagram　@parcic_tokyo
YouTube　@ParcicChannel